



取扱説明書〔本体編〕 V1.4

Nexus D7500 / Nexus D7200 / Nexus D7500 D750 共通

このたびは、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用前に本書〔ハウジング本体編〕並びに別冊子〔カメラ編〕をよくお読みください。Nexus ハウジングを安全に正しくお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。お読みになったあとも、大切に保管してください。

カメラをハウジングにセットしたら、水中で使用される前に必ず、全ての操作部が確実に操作できることを確認してください。

取扱説明書で使用している画像やイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

a n t h u s

目 次

セッティングの基本

レンズとカメラの準備	本体 1～2
ポートの準備と取り付け・取り外し	本体 3
ハウジングの準備	本体 4～8
マルチファインダー インナーユニットのセット	9
視度調節について	9～10

補足説明

2 モードギアの取り扱いについて	11
ノブの滑りや空回りについて	12
ストラップリングについて	12
表示シールについて	12

安全にお使いいただくために

ご使用前の確認とリークテスト	13
取り扱い上の注意	14～16
Oリングの取り扱い	17～18
ボディOリングの交換と点検方法	19～21
ご使用後の取り扱いと保管	22
修理／サービスを依頼される場合について	22

本製品は、ニコン D7500 / D7200 カメラを収容できる防水耐圧ハウジングで、水深 75m までの圧力に耐えられます。

レンズによる選択

<単焦点レンズ>

オートフォーカス (AF) レンズを

- オートフォーカスで使用される場合は、フォーカスギアは必要ありません。
- マニュアルフォーカス (MF) で使用される場合は、レンズにフォーカスギアを取り付けます。

<AFズームレンズ>

レンズにはズームギアを取り付けます。

ズーム操作はズームギアによりできますが、フォーカスはオートフォーカスでご使用ください。

<オプション>

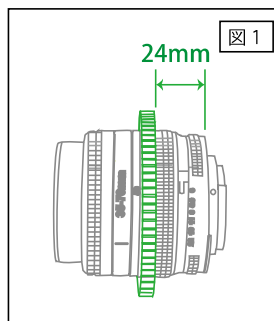
AF/MF 切替え機能つきフォーカスノブ

オートフォーカス時にフォーカスリングが回転して、レンズの全長が変化するレンズをご使用の場合には、フォーカスギアの駆動を切り離し、レンズに負荷がかからない AF/MF 切替えノブもあります。

1 ギアの取り付け

1-1 レンズにフォーカスギアまたはズームギアを取り付けます。ギアはレンズのフォーカスリングまたはズームリングの上にあっすぐに取り付けます。

1-2 レンズマウント面からギア後ろ面までは約 24 ミリです。☞ 図-1
ギアの取り付けについては、各々の取扱説明書をご覧ください。



1-3 レンズをカメラに取り付けます。

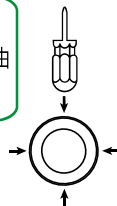
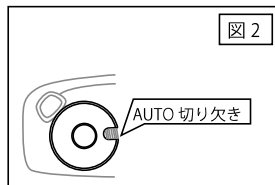
2 モードキャップの取り付け

カメラの撮影モードダイヤルにかぶせます。

- 2-1 ダイヤルを AUTO にセットします。
キャップの切り欠きを AUTO に合わせ、
押してください。☞図-2

注意 キャップがゆるい場合は調節してください。

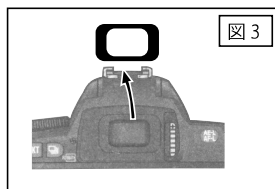
キャップの微調節
キャップの耳をほんの少し数カ所曲
げてください。



3 接眼目当ての取り外し

接眼目当てがあるとリアボディと干渉し、コマンドダイヤルや背面のボタン操作が正しく行えない、リアボディが浮き上がるなど不具合の原因となる場合があります。

- 3-1 接眼目当てを取り外します。☞図 3



4 カメラの準備

カメラをハウジングにセットする前に行ってください。

- 4-1 メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルのワックス、皮脂、指紋等をカメラ専用のクリーニングクロスやペーパーで丁寧に拭き取ります。カメラのダイヤル上の油分が、ハウジング内部のホイールの O リングに付着すると、滑りやすくなり、ノブが空回りして操作ができない場合があります。
- 4-2 1コマ撮影や連続撮影など、レリーズモードを選択します。
詳しくはカメラの使用説明書をご覧ください。

5 ポート基部点検

- 5-1 ベース Oリング、Oリング溝、ネジ部の点検をします。☞図 4

ゴミ、ホコリ、砂などの異物の付着と Oリングの傷、割れ、ねじれがないか点検してください。Oリングについての異物は微量でも浸水の原因となります。

▶本書 P19～P20__Oリングの取り扱い参照



図 4

- 5-2 ポートのネジ、ベース Oリング、ベース Oリング接触面にグリスを薄く塗ります。

☞図-5

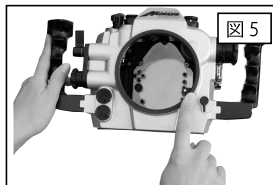


図 5

6 ポート取り付け

- 6-1 ネジを合わせ、根元付近を持って時計回りに締めます。

ポートの Oリングが、接触面にあたりはじめると抵抗があります。

そこから、約 35～45 度回します。

これを締め付け角度の目安として確実に取り付けてください。☞図-6

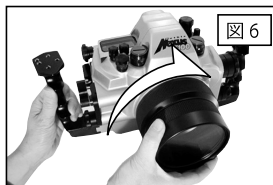


図 6



ノブ付きポートのノブを持って着脱はしないでください。根元から損破して重大な事故になります。

Oリングは、Oリング接触面と接触し、均等で途切れのないつぶししろにより防水します。以下のような場合には、防水機能を失い重大な事故につながるおそれがあります。

●締め付け角度が不足する。→Oリングの摩耗、変形など

●締め付け角度がない→Oリングの脱落、外径の大きいフィッシュアイポートの場合は、Tスライドベース（☞カメラ編 P2 名称 4）との干渉など原因を調べ、取り除いてください。

7 ポート取り外し

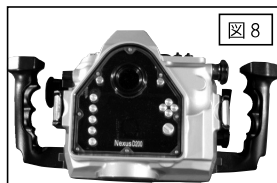
- 7-1 ハウジング本体をしっかりと支え、ポートを反時計回りに回してください。

8 リアボディを開ける

- 8-1 フロントボディの電源スイッチノブを、引き上げます。
リアボディの撮影モードノブを引き上げます。☞図-7
ボディ開閉時には、カメラが入っていないでも行ってください。
ノブが下がっていると、内部のプレートがカメラのスイッチと接触します。



- 8-2 安定した所にポート先端を下にして置きます。☞図-8



- 8-3 リアボディのラッチを左右同時に開きます。☞図-9

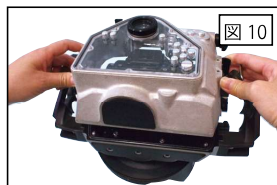


ラッチを片側だけ開けた場合、もう一方のパッキングロックにより、リアボディがはね上がり、Oリング接触面を傷つけることがあります。

ラッチのバネによりグリップとの間に指が挟まれることがあります。少し浮き上がった状態で、指の位置を変え挟まれないように注意してください。



- 8-4 フックを外し、リアボディをそのまま持ち上げます。☞図-10
リアボディはOリング接触面を上にして安定した所に置いてください。



Oリング接触面を下にして置くとゴミ、ホコリ、砂などが付着します。また、防水に致命的な傷が付くこともあります。

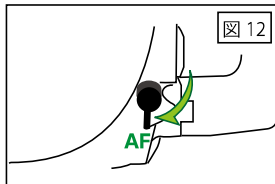
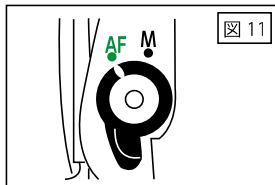
9 カメラのセット

カメラをセットする際は、電源が OFF になっていることを確認します。



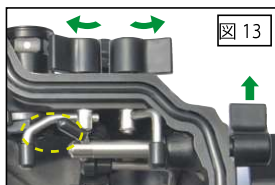
注意

フォーカスモードセレクトターは、位置を合わせないと、**①**操作ができない。**②**カメラブロックの破損。ダイヤルとブロックが接触して**③**カメラが正しい位置に収まらない。などの不具合が起こります。



9-1 カメラのフォーカスモードセレクトダイヤルを AF に合わせます。☞図-11

9-2 ハウジングのフォーカスモードセレクトレバーを AF に合わせます。☞図-12



9-3 フロントボディ内部の部品が、カメラ取り付け時に邪魔にならないようにします。シャッターボタン、露出補正ボタン、ISO ボタン、動画撮影ボタン等のアームを挟み込まないように注意してください。☞図-13

9-4 カメラを入れます。
光ソケットのミラープラグ (レンズ部) は欠けやすいので、触れないようにしてください。レンズ、ギア、に注意しながらゆっくり入れます。☞図-14



9-5 三脚ネジ穴にカメラホールズリューを合わせます。



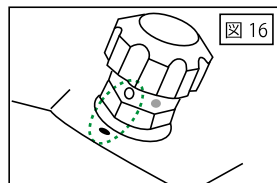
注意

ネジがスムーズに合わない場合は、無理に締めないでください。カメラが正しい位置にセットされていません。**①**モードギアの設定、**②**フォーカスモードの位置合わせ、**③**シャッターアーム、動画撮影アームなどを挟み込んでいないか確認してください。

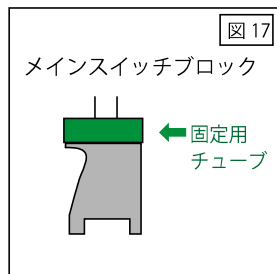
- 9-6 カメラを固定します。
カメラホルドスクリューを時計回りに回します。☞図-15
完全に固定する前に、各操作部がスムーズに動くか確認してください。



- 9-7 電源スイッチノブの白印をフロントボディの指標（●）に合わせ下げます。
☞図-16
ノブを回して「橙印」を指標に合わせるとカメラの電源が ON になります。さらに回すと、表示パネルのイルミネーターが点灯します。「白印」を指標に合わせると OFF になります。
電源 OFF：黒／白 ON：黒／橙
ノブを操作して、電源の ON/OFF を確認してください。

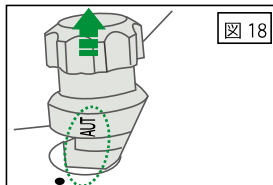


※メインスイッチブロックには、ゆるまなように固定用のチューブが取り付けられています。☞図-17
ブロックのネジを触る必要がある場合は、チューブをめくってください。



10 リアボディを閉める

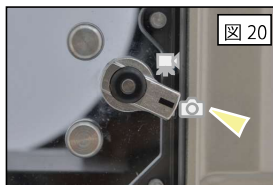
- 10-1 撮影モードノブのAUTを図のようにリアボディの指標（●）に合わせます。このとき、ノブが引き上がっていることを確認してください。☞図-18
ノブが下がっているとモードキャップとプレートが接触して、カメラが正しい位置にセットできません。



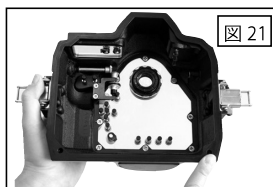
ライブビューセクターは、予め位置を合わせておかないと、水中で操作ができません。位置合わせをしないでリアボディを閉めると、操作ができないだけでなく、ブロックの破損、干渉によるすき間の発生等の不具合を起こす原因となります。



- 10-2 ライブビュー切替えボタンの指標をカメラの設定に合わせます。☞図-19・20

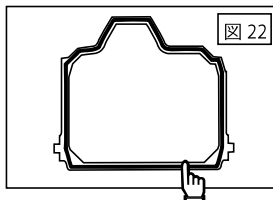


- 10-3 リアボディのOリング接触面に傷やゴミ、ホコリ、砂など異物が付着していないか点検します。☞図-21



- 10-4 フロントボディのOリングにゴミ、ホコリ、砂など異物の付着や傷、割れ、ねじれがないか点検します。

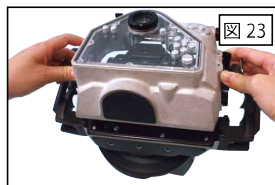
- 10-5 ボディ O リングにグリスを薄く均等に塗ります。☞図-22



10-6 リアボディのピン穴をフロントボディの
ノックピンに合わせて置きます。

☞ 図 -23

リアボディを置いたら、合わせ面を一周
確認してください。

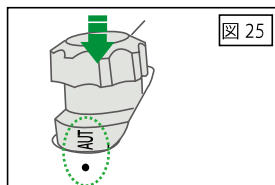


すき間がある状態で閉めないでください。防水機能が損なわれ大変
危険です。①干渉を引き起こすアームやブロックの位置合わせを确实
に行ってください。②接眼目当ては外してありますか。③カメラコ
ネクタのケーブルを挟んでいる場合もあります。

10-7 ラッチをフックにかけ、左右同時に引き
上げます。☞ 図 -24



10-8 撮影モードノブを下げて、カメラにかぶ
せたモードキャップの切り欠きに、プ
レートのつめを合わせます。☞ 図 -25
ノブを回し、モードの切り替えが正しく
スムーズに行えることを確認してくださ
い。



11 マルチファインダー インナーユニットのセット

インナーユニットのネジに少量のグリスを塗ります。ホルダーのネジに合わせて、時計回りに止まるまで回します。☞図-1



▶インナーユニットの仕様

- なし…ハウジングとマスクにより、アイポイントが遠くなり、ファインダー像にケラレが発生します。ファインダー像は拡大も縮小もしないノーマルの状態です。
- ピックアップユニット…ファインダー像を縮小して、全視野が確認しやすくなります。フレーミング重視にお勧めです。
- マグニファイアユニット…中心部を約 1.2 倍拡大して、マクロ撮影等でピント合わせをより確実にします。

▶その他

- 保管は付属のケースに入れてください。

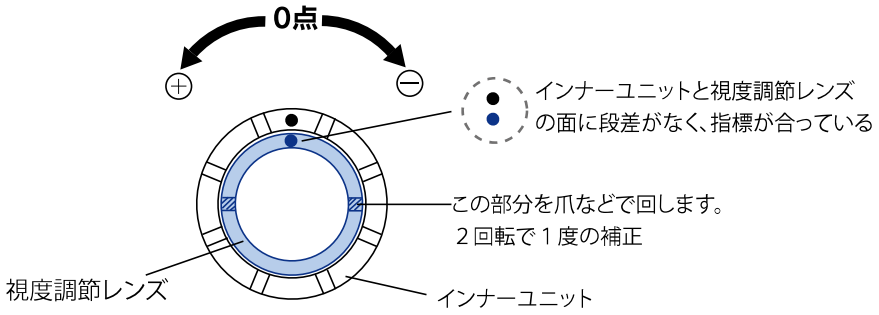
視度調節について

ピックアップユニット、マグニファイアユニットは視度調節機能付きです。インナーユニットにネジ込んだ視度調節レンズを、時計または反時計回りに回して調節します。

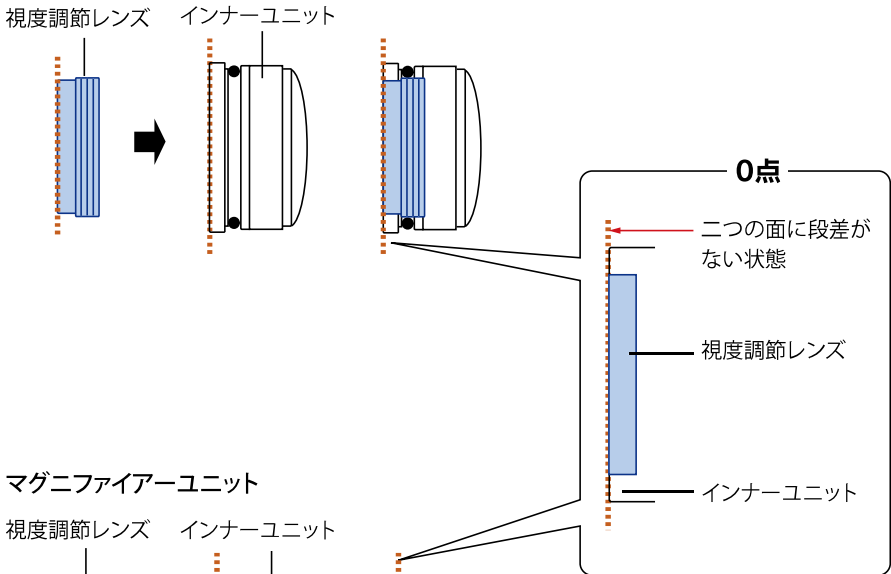
0点より2回転（高低差1mm）で1度の補正となります。補正の範囲は±1度までです。+側に回し過ぎると、視度調節レンズが脱落することがあります。ご注意ください。

▶調節方法

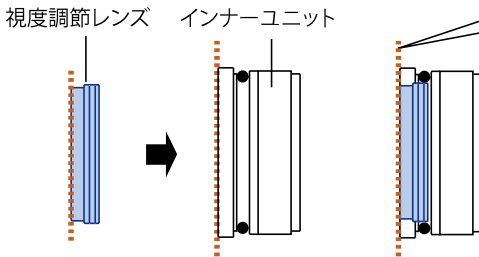
インナーユニットに視度調節レンズをネジ込み、二つの面に段差がないフラットな状態で、指標が合うところが0点です。ご購入時の状態です。撮影前にファインダーを見ながら最適な位置に調節してください。



ピックアップユニット



マグニファイアーユニット

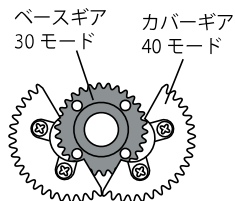


2モードギアの取り扱いについて

当製品の『2モードギア』は30モードのベースギアに40モードのカバーギアが装着されています。カバーギアはネジで固定されており、着脱することができます。

大口径レンズは、セッティング時にボディ内部に干渉する。フォーカスギアの径も大きい。等の理由からハウジング側のフォーカスアイドルギアのモードを替える必要があります。

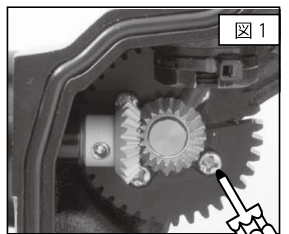
※ご購入時は標準の40モードに設定されています。



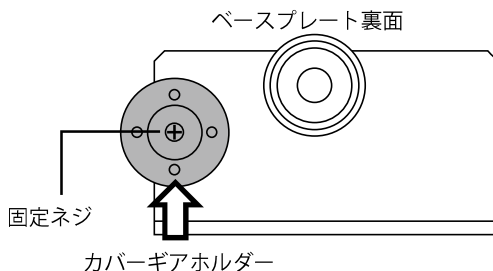
AF-S VR Micro-Nikkor ED 105mm F2.8 などの大口径レンズを使用するには：
カバーギアを取り外し30モードに設定します。

ノブを回しながら4箇所ネジを外し、カバーギアを取り外します。☞図1

外したカバーギアはベースプレート裏面のホルダーに取り付け、保管してください。一般的なレンズを使用する際に必要です。



磁力対応のネジを使用しています。



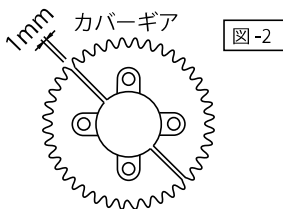
カバーギアホルダーの使い方

- 外したカバーギアを逆の手順でホルダーに取り付けます。
- ホルダーの固定ネジを外して、ベースプレートから取り外して、カバーギアを取り付け、元に戻す方法もあります。

一般的なレンズを使用するには：

カバーギアを取り付け40モードに設定します

切断面のすき間が均等になるように、取り付けてください。☞図2



ノブの滑りや空回りについて

カメラのダイヤル上にグリスや皮脂の油分が付着している可能性があります。油分が付着すると滑りやすくなり、空回りの原因となります。カメラ用のクリーニングクロスやペーパーで油分をきれいに拭き取ってご使用ください。ダイヤルを回す O リングの油分もきれいに拭き取ってください。

ストラップリングについて

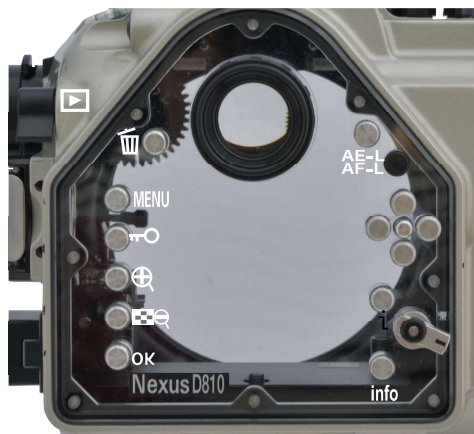
- 付属品のストラップリングは、必要に応じてグリップのストラップベースに取り付けてください。
- フル装備を想定したものではありません。重い物を装着すると切れやすいです。ご注意ください。



表示シールについて

付属品の表示シールは汎用タイプで、シール面が内側用と外側用があります。各操作部やボタンの名称に合わせて貼ってください。

<使用例>



作動確認

- ハウジングの各操作部が正常に操作できるか確認します。
- 本製品の作動確認は、当社基準カメラに基づきます。万一作動に差し障りな点がございましたら、アンティス サービスへご相談ください。微調整を承ります。

撮影準備

- ストロボの発光テストをおすすめします。
- 各機能のリセットはいかがでしょうか。

リークテスト

耐圧防水性能の確認テストです。移動、運搬時に起こりやすい破損や、セット変更時のミスなど、さまざまなリスクから大切なカメラやレンズを守ります。

●リークテストはどのような場合に行うのか？

- 初めて使用する時
- 前回のご使用から長期間ご使用にならなかった時
- 航空機での運搬後
- 長距離での運搬後
- 高低差のある移動後
- ポートの着脱交換後
- Oリングの着脱交換後

●リークテストはどのようにして行うのか？

カメラ、レンズを外した状態でハウジングを撮影予定の水深まで持って行き、水漏れなどの異常がないか確かめます。

ハウジング

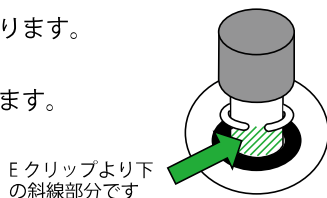
- 防水はOリング、フロントボディのOリング溝、リアボディのOリング接触面により機能し、それぞれが重要な働きをしています。
※本書 P17～P18「Oリングの取り扱い」をよくお読みください。
- ボディ、ポートの各Oリングは不用意に外さないでください。
ボディOリングを交換する時は確実にセットし、必ずリークテストを行ってください。
※本書 P13「リークテスト」をよくお読みください。
- リアボディは確実にフロントボディノックピンに合わせてください。
ボディ前後のずれ、リアボディの浮き上がりがいないかを確認してからラッチを同時に閉めてください。
- リアボディのOリング接触面やフロントボディのポートOリング接触面の傷には注意してください。傷の修復は困難な場合があります。
- 炎天下の車内および高温になる場所や直射日光のあたる所に放置しないでください。カメラやハウジングの故障原因になります。
- 大きな外力（落下、衝撃、強い振動など）を加えないでください。
- 海辺など、潮風のあたる場所での開閉はできるだけ避けてください。
- 水分が十分に乾いていない時にメモリーカード、バッテリー交換などで開ける場合は、ハウジングの周りを真水で洗い、水分を十分拭き取りポートを下にして開けてください。水分が残っていると、開口部とOリングのすき間にある水滴がカメラにかかることがあります。
- 雨天の屋外など湿気の多い所でハウジングを開閉したり、水中撮影時と温度差のある所では結露現象が起これ、ポートレンズやファインダーレンズが曇ることがあります。

ボタン

操作部のグリスは徐々に消失していきます。これに伴い動きも重くなります。このような場合には、グリスを補充するとスムーズに動くようになります。

<ボタンのグリスアップ>

- 1) ボタンを押して軸の周りにグリスを塗ります。
※つまようじ等を利用すると便利です。
- 2) ボタンを数回押してグリスをなじませます。



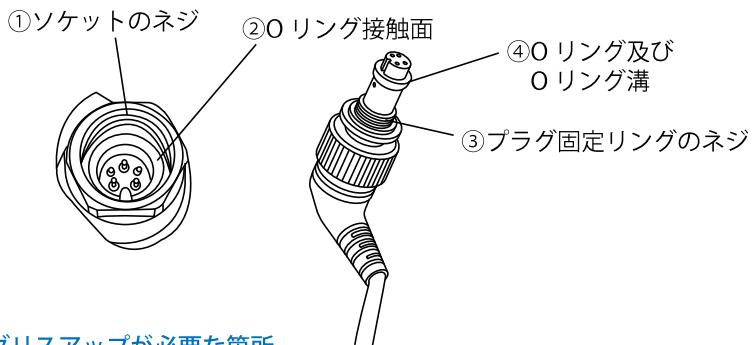
Eクリップより下の斜線部分です

シンクロソケット

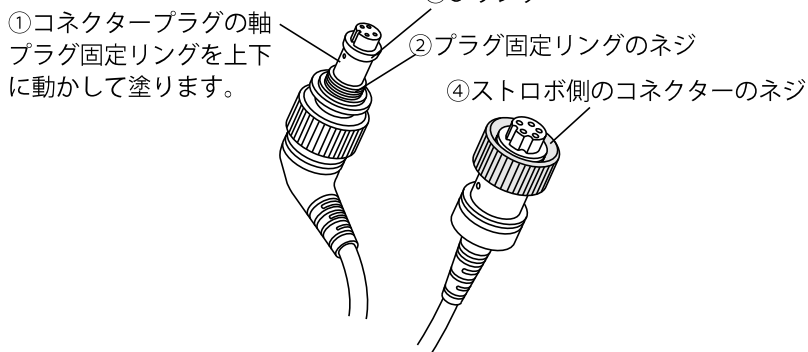
- 海から上がった直後など、良く乾かない状態でストロボのシンクロコードを外すと水滴がシンクロソケット内に落ちることがあります。落下した水滴は短時間でシンクロ端子を腐食させ接触不良を起こします。万一水滴が落ちた場合は速やかに拭き取ってください。
 - シンクロコードを外す際は、よく乾燥させてから行るか、接触部分の水分をタオルなどでよく拭いた後にハウジングを横向きか逆さにして行ってください。水滴の落下を防ぎます。
 - ソケット内への水、ゴミの侵入を防ぐために、シンクロコードを接続する時以外はシンクロキャップで保護してください。
 - 使用しないソケットは、シンクロキャップのネジにグリスをしっかりと塗ってください。キャップがはずれなくなることがあります。
- ※以下の箇所をクリーニング及びグリスアップすると、とシンクロコードが固着しにくくなります。

注意 ⚠️ ゴム系以外のOリングが組まれているシンクロコードは、接続する前に他のグリスが接触しないようにソケット内部のグリスをきれいに拭き取り、グリスアップの際も専用のグリスを使用してください。

●クリーニングが必要な箇所



●グリスアップが必要な箇所



ポート

- ハウジングに取り付ける前にOリングだけでなく、ネジにもグリスを塗ってください。
- 露出したネジやOリングはとても傷つきやすいのでポートキャップリア（別売品）で保護してください。
- プラスチック製のポートは、高温下で保管したり長時間日光にさらされたような場合、若干ではありますが膨張する傾向にありますので、お気を付けください。

水中撮影

- 初めて使う時や長時間ご使用にならなかった時には、リークテストを行ってください。
- 潜行を始める前に浅い所で各操作部が正常に作動するか確認してください。

運搬

- 運搬の際には、機材同士がぶつかり合ったり、振動や衝撃を加えないでください。
- ハウジングは耐圧容器です。内部圧力の上昇には耐えられません。航空機などでの運搬時には、ポートは外してください。ボディキャップ（別売品）のご使用をおすすめします。
- 落としたり、ぶつけたりして強い衝撃が加わった場合には、外観に異常が見られない時でも弊社サービス部で点検を受けられることをおすすめします。
- カメラはハウジングから外して、運搬されることをおすすめします。

もし水漏れが起きたら

- 内部に水滴が見えたり、異常に気が付いた場合は撮影を中止し、カメラを水平に保ち、できるだけ早く水から上げてください。
- 浮上時には浮上スピードに気を付け、減圧時間を守ってください。カメラ、ハウジングを速やかにご購入の販売店へお持ちください。

Oリングの交換時期

- ボディ、ポートのOリングは、傷がなくても変形や摩耗により防水性能はおちてきます。長くて1～2年を目安に交換してください。(約100ダイブ)
- 可動部のOリングの耐久性は、取り扱い及び使用頻度により異なりますが、年ごとの可動部Oリング交換、3年ごと(約200ダイブ)の全Oリング交換をおすすめします。
- ご自身でOリング交換をされた場合は、必ずリークテストを行ってください。▶本書P13リークテスト参照
- 弊社サービス部でも承っています。メニューの一例です。詳しくはアンティスホームページ <http://www.anthis.co.jp> から「サービス情報」をご覧ください。

	交換時期目安	内容	預り日数預
オーバーホールA	100ダイブ もしくは 1～2年使用	可動部分解点検、調整、 Oリング交換、シンクロ 点検、ボタングリスアップ、 内部清掃、耐圧検査	約2～3 週間
オーバーホールB	200ダイブ もしくは 3年使用	全分解精密検査、全Oリ ング交換、シンクロ点検、 ボタングリスアップ、 内部清掃、耐圧検査	約2～3 週間

ボディリングとは

- ハウジングの防水はリングが重要な役目を果たし、そのセット状態が防水性能を大きく左右します。
- 不完全なセットは浸水、水没の原因となります。通常のお手入れとして不用意にはずさないでください。




ボディリングの交換

- ボディリングの交換及び着脱をご自分でされる場合は、以下の交換、点検方法に従って確実に行ってください。
- 交換に不安を感じられた場合は弊社、プロショップ、販売店にご依頼ください。

外す前に

本書 P20 の「ボディリングの点検方法」をお読みになり、現在のリングの状態を点検します。

交換手順

1. リングとリング溝とのすき間にプラスチックカード（または丸いへら）を入れ、リングを引き出します。

リング溝を傷付けないでください。
2. リング溝にゴミやほこりが付着していないか点検します。付着している場合は、綿棒等で取り除きます。

ゴミ、ほこりは防水機能を損ないます。
3. 交換用リングに傷やほこりが付着していないか確認します。ほこりがある場合は取り除きます。傷がある場合は使用しないでください。

グリスは塗り過ぎやムラがないようにしてください。
4. 指先でリングの表面にグリスを薄く塗ります。
5. リングを取り付けます。
リングのあたりが均等になるように入れるにはコツがあります。
▶本書 P21「ボディリングの取り付け方」を参照してください。
6. リングの取り付けが正しいか、セット状態を点検します。
▶本書 P20「ボディリングの点検方法」を参照してください。

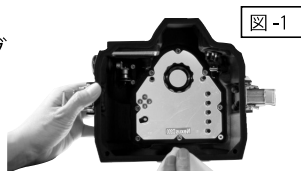
ボディ O リングの点検方法

❖用意するもの

O リンググリス、弱い揮発性溶剤、ガーゼ等拭き取るもの

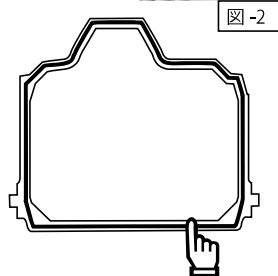
※揮発性溶剤の例：無水エタノール、ベンジン、アクリル塗料溶剤など

1. リアボディ O リング接触面に付いているグリスを揮発性溶剤を含ませたガーゼ等できれいに拭き取り、乾かします。☞ 図-1



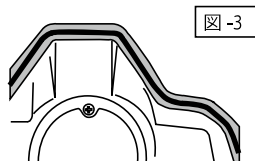
揮発性溶剤は、グリスの油分を取り除くために使います。強いものはボディを痛めますので、使用しないでください。

2. ボディ O リングにグリスを薄く均等に塗ります。☞ 図-2



グリスの塗り過ぎやムラがないようにしてください。O リングのあたり具合が正確に確認できません。

3. ラッチを一度閉めてから開けます。
4. O リングのセット状態が O リング接触面に転写されます。その状態を点検します。
☞ 図-3



- a) 途切れていないか。
- B) 広い、狭いなど幅に不揃いはないか。

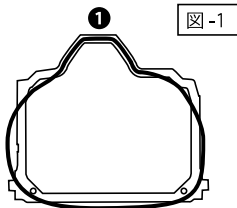
5. 幅の不揃いや途切れがある場合は、大変危険です。水面直下での浸水や、重大な事故を起こす可能性があります。
均等になるまで繰り返しセットし直してください。

以上は大変重要です。確実に行ってください。
ご不明な点はお問い合わせください。

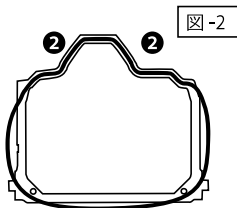
ボディ O リングの取り付け方

Oリング溝にゴミやほこり、Oリングの傷などが
ないことを確認してから行ってください。

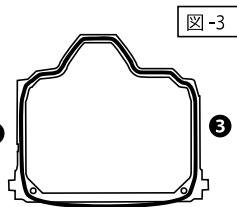
1. 上部に入れます。☞図-1



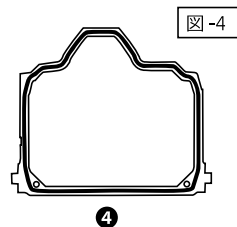
2. 両肩に入れます。☞図-2
左右どちらからでもかまいません。



3. 側面の溝に少し伸ばしぎみにいれます。
☞図-3




4. 下辺に入れます。☞図-4



5. Oリングのねじれを点検後、指先で全
体の凹凸をならします。

6. Oリングの取り付けが正しいか、セット状
態の点検をします。

 本書 P20 のボディ O リングの点検方法
を参照してください。

<取り付けのポイント>

下記の内容をふまえた上で取り付けをしてください。

- 伸ばして入れれば細く（低く）なります。逆に詰めて入れれば太く（高く）なります。
- 上部はラッチから遠いので、余裕を持たせ詰めて入れます。
- ハウジングの両側面（縦）はラッチに近いので、あたりが平均して強く（広く）なるため、少し伸ばしぎみに入れてください。
- 下辺はそのままの長さで押し込んでください。

上部や角部は O リングがねじれたり、あたりが不均等になりやすいので特に注意してください。

●ご使用後の取り扱い

ご使用後は必ず行ってください。

- 外部に付着しているゴミ、砂、塩分などを取り除くために、真水に十分浸してから、流水ですき間に残った砂、塩分を洗い落としてください。
海中で使用したまま放置しておくと、各操作部に塩分などが固着し、作動不良や腐食を起こします。
- 直射日光があたらない、風通しのよい場所で乾かしてください。
- Oリングの点検およびグリスアップをしてください。

●保管に関するご注意

完全に乾いた状態で行ってください。

- カメラ、レンズ、ポートは取り外してください。
ポートのネジ部は、ポートキャップリア（別売品）などで保護してください。
- ハウジング内に乾燥剤を入れ、Oリング接触面はボディキャップ（別売品）で保護してください。
- ボディOリングは不用意に外さないでください。
- 直射日光のあたらない、風通しのよい乾燥した場所を選んでください。
湿気が多い場所やナフタリンや樟腦の入った所に保管しないでください。

●修理／点検を依頼される場合について

- スムーズで確実な対応をさせていただくため、anthis ホームページのサービス情報から「修理・サービス依頼書」をダウンロードして、必要事項をご記入の上、依頼品に添付してください。
- 故障や浸水などの場合は、できるだけ詳しい状況をお知らせください。
- 依頼品のみをお送りください。関係のないアクセサリ類や他社製品は外しておいてください。
- 輸送中のトラブルから大切な機材を守るために、送付の際は、梱包に十分な注意をお願いします。ハウジングには、ボディキャップ、ポートには、ポートキャップ、ポートキャップリアで保護されることをおすすめします。
- 外付けのビューファインダーや長いアームのような突起物は、輸送中に過大な力を受けると、ハウジング本体へのダメージ、変形などの原因となります。外してお手元で保管してください。
- 交換パーツの外観、価格、仕様等は予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

送付先及び、ご不明な点は anthis サービス部へ

〒444-2137 愛知県岡崎市藪田 1-16-1

TEL : 0564-25-3937

受付時間：(月～金) 午前 8 時～午後 5 時

チエックしてください

準備はできましたか！大丈夫ですか！
うっかりなんてことはありませんか？
水中に入る前に点検を

□カメラ

- 電池は入っていますか
- 電池の残容量は十分ですか
- メモリーカードは入っていますか
- 撮影可能コマ数は十分ですか
- 各操作部は正しく動きますか

□防水

- OリングとOリング接触面に異物はありませんか
- Oリングのあたりはどうですか
- リアボディにフロントボディをのせ、無理なく閉まりましたか
- 左右のラッチは同時に閉めましたか。また確実に閉まっていますか
- 前後のボディにずれはありませんか

□作動

- 全ての操作部がスムーズに操作できますか

□ポート

- ベースOリングは入っていますか
- Oリングがはみ出ていませんか
- ポートは確実に締まっていますか

□ストロボ

- シンクロソケットは確実に締まっていますか
- 電池は入っていますか
- 発光テストはしましたか
- チャージ時間はどうですか
- 正常に作動しますか

※本書の内容についてご不審な点、誤りなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

a n t h i s

有限会社 アンティス

〒444-2137 愛知県岡崎市藪田 1-16-1

TEL：0564-25-3937

FAX：0564-25-2205

<http://www.anthis.co.jp>

*改善により仕様および外観の一部を予告なしに変更することがあります。
*取扱説明書における本文および写真などの無断転載、複製を禁じます。